

好学尚武

（何事も）当たり前ではない・・・

この立場（高野連の理事・市営浦和球場の球場主任）になるまで気付きませんでした。春・夏・新人戦、秋、それぞれの大会や野球教室などで市営浦和球場を使用できること・・・そんなの当たり前だと思っていました。

実はこれらはすべて、前年度に行われる球場日程調整会議によって決められているのです（さいたま市内の体育施設、すべてそのような形だと思います）。会議当日、市役所担当の方々は大変だと思います（午前・・・サッカー、陸上、テニス、午後・・・野球、ソフトボールの調整となっていますので＝1日がかり）。

決められた期日までに次年度の球場使用希望を提出（私は県高野連からその希望を聞き、そのまま提出します）。市内野球団体のあらゆる希望が持ちよられ、その会議が行われます。次年度4月1日～3月31日まで、希望が重複しているすべての日の調整が行われます。凄いのが抽選等は一切なし、すべて話し合いで決めていくことです。高野連の立場でありがたいのは、夏の大会が全国規模で行われており有名なこと（ここに他団体が希望を出してくることがあまりない）、厳しいのが、夏優先的に使うのだから他の時期（春・新人戦・秋）は他団体に譲ってもらいたいというようなことを言われること。この会議、野球の采配同様、駆け引きが求められます。

今年も使用希望提出の案内が届きました。

来年度、大会等で市営浦和球場を使用することがありましたら、その日の使用がすべて調整によって決まっていることを少しでも思い出していただければと思います。

井口監督、頑張れ！

市高時代、試合に出場している時（ショートに守っている時）打たれたホームランで忘れられない2本を紹介します。

1本目は当時、浦和学院高校の選手だった清水君（私と同じ代）のホームラン、やや大袈裟な表現ですが、セカンドの選手がジャンプするような低い打球（ホームランになった時、まだ打球の高さが頂点に達していないような軌道）の右中間へのホームラン。

2本目は当時、国学院久我山高校の選手だった井口君（私の1つ下）のホームラン、川口市営球場で打たれたそのホームランは、人間の打った打球がこんなに高く上がるのか？というような軌道で、球場にいた皆が（口をポカンと開けて）見上げ、しばらく経っても打球が落ちて来なかったという左中間への場外ホームラン。

私は市高が甲子園で全国ベスト4になった翌年に入学していることもあり、練習試合の相手校が全国クラスの高校ばかりでした。こんな私でも高校入学時、将来の夢は「プロ野球選手」、でも（そんな相手校ばかりだったので）夢と現実の違いにすぐ気付かされました。野球をすることで給料を稼ぐ人達の世界がどんなものか・・・清水君はのちに巨人の主力として活躍、井口君はメジャーで世界一にまでなりました。今となっては高校時代、彼らと一緒にプレーできたことが良い思い出となっています。

今回、このような文を書かせていただいたのも、先日、侍ジャパンのメンバーが発表され、井口君がその監督を務めることを知ったからです。

今回の侍ジャパンは若手中心のメンバー構成のようです。しっかりまとめて結果を残して欲しいです。井口監督、頑張ってください！